

Arguments about the Curriculum by Elementary School Teachers during the Kyoikurei(1879 Education Order) : From Fugeshi and Suzu county educational conference proceedings in 1880(Part 1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39076

教育令期小学校教員たちのカリキュラム論議 (1)

1880(明治13)年「石川県鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」(その1)

大久保英哲 齊藤由華* 田辺圭子* 山口真史*

Arguments about the Curriculum by Elementary School Teachers during the Kyoikurei(1879 Education Order): From *Fugeshi and Suzu county educational conference proceedings* in 1880 (Part 1)

Okubo Hideaki, Saito Yuka, Tanabe Keiko and Yamaguchi Masafumi

はじめに

(1) 教育令改正と石川県小学校模範教則

1879(明治12)年9月27日、学制の中央集権的、強制的政策の行き詰まりを打破し、また高揚する自由民権運動対策の意味合いもあって、自由主義的傾向を持つとされる教育令が公布された(日本近代教育史事典編集委員会『近代教育史事典』,平凡社、1972、p.5)。この教育令を受けて1880(明治13)年4月30日、石川県小学校模範教則(以下「模範教則」と略す:筆者)が制定された教育内容の改善をはかり、また福井・富山両県を併合して大県となった石川県が管内教育の一元化をめざしたもので、金沢にあった第一師範学校(石川県師範学校)練習部(附属小学校)で実施した教則を模範として、漸次県下に普及させようと意図したものであった。したがって、この「模範教則」は福井県、富山県にも適用されたわけであり、その影響は極めて大きかった。

この「模範教則」では満6歳から11歳まで、第五級から第一級に至る5つの学年段階を設け、1つの級(学年)を前期・後期の2期に分け、期末に試業を経て進級させる一般教科のほか、第三級以上の女子には「裁縫」と「容儀」を、高等小学科を希望する者は第二級を卒業すれば進めるものとした。また男子には本人の希望と土地の状況により農工商のうちの1科を授ける

などが規定されていた。教育令の公布によって、各学校・地域では文部省の認可を得れば自主的に教則を編成できる可能性があり、各郡区で審議された形跡が見られる。石川県下では錦城小学校(現加賀市)や宇出津小学校(現鳳珠郡能登町)で独自の編成がなされたと伝えられている(石川県教育史編纂委員会『石川県教育史第一巻』1974、pp.226-229)。今回取り上げる石川県鳳至・珠洲郡もそのひとつである。

(2) 史料「鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」

本研究で用いた、「能登輪島住吉神社」所蔵になる「鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」は、1880(明治13)年7月10日から8月1日までの20日間、現在輪島市に位置する舞訓小学校の階上で開催された「模範教則」を審議する鳳至・珠洲二郡の協議会の模様を184頁にわたって伝える毛筆日誌体の議事録である。

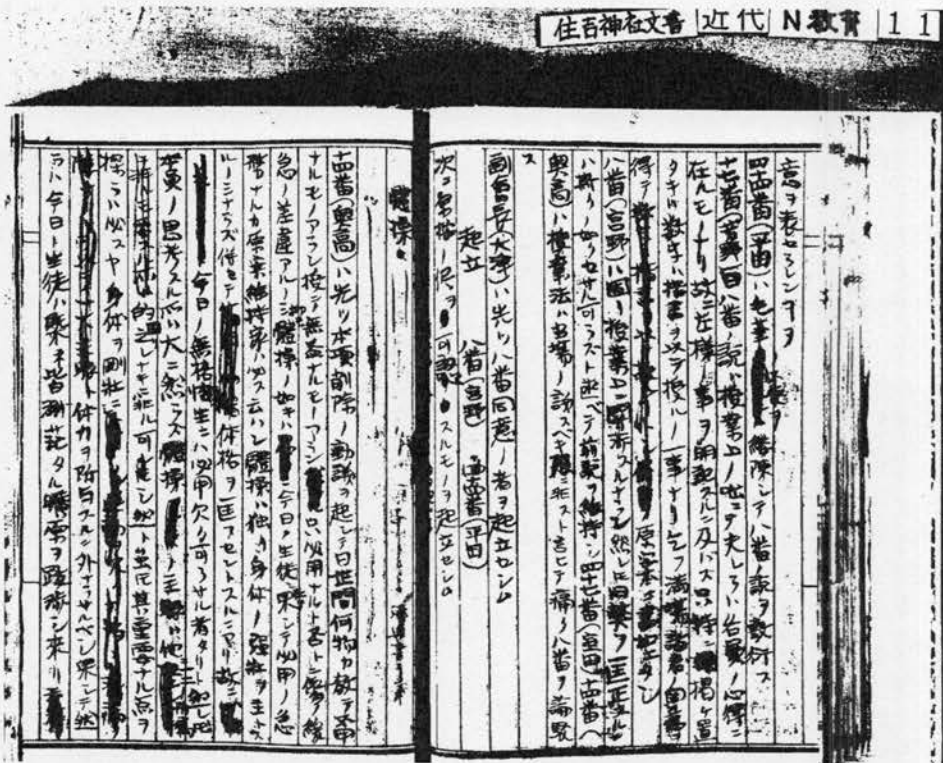
両郡の小学校教員約30名(日によって一部入れ替えあり)を会員に、教則内容と説明書を審議し、両郡としての採択の是非を議論した。酷暑の中、延々20日間にわたる質疑討論の様子は詳細に記録され、連日数十名の傍聴者が詰めかけたこと、議事規則が制定されて、合理的な議事運営がなされていたことなどが注目される。また自由民権運動の影響を受けて、議事の進め方をはじめ、一つ一つの議論が極めて白熱して

いることも特色である。なお、発言記録には会員番号（原文漢数字）と共に姓名が付されている。番外とあるのは原案説明者の石川県師範学校教員（県学務委員）である。原文は漢字カタカナによる毛筆の速記体の文章と記録者の要約文または補足説明文、それらの訂正や削除線などが混在し、誤字略字等も多数見られる。（写真1参照）

この「鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」の存在は、『輪島町史』, 1984, p. 243、『輪島市史』四近代補遺資料・第三章教育史料第二節に取り上げられ、7月13日と15日の議論の一部が収録されている。また前述『石川県教育史第一巻』pp. 399-400にも取り上げられている。教育令期教育会の会議録研究には、湯川嘉津美「教育令期における九州各県聯合教育会の開催とその意義」（『地方教育史研究』33, 2012, pp. 21-42）が見られるが、これは1883（明治16）年のものであり、カリキュラム論議としては、この「鳳

至・珠洲二郡教育協議会日誌」が早くまた詳細である点で、当時の教育実態や教師の教科についての理解度を知る上で、教育史上きわめて史料価値が高いと思われる。しかし本史料を用いた研究としては大久保英哲「教育令期小学校教員たちの体操科理解：1880（明治13）年石川県鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌から」、体育学研究36-1, 2013があるのみである。このように貴重な一次史料であるにもかかわらず、研究が進んでいないのは本史料の活字化がなされていないためであると思われる。

そこで本稿では、輪島市教育委員会文化財課の許可のもと神奈川大学常民文化研究所所蔵マイクロフィルム版「能登輪島住吉神社」文書「鳳至・珠洲二郡教育協議会日誌」をもとに翻刻を試みた。なお本作業は、平成24年度教育学研究科の演習の一環として行われたものであり、斉藤由華・田辺圭子・川尻達也・山口真史の4名が分担解読し、斉藤が全体の統一と調整を行った。



なお、今回収録したのは全体の約半分である。後半部と解説や注、参考文献などは稿を改めて述べることにしたい。

凡例

- 一 文字が判読不能な部分については「●」と表記している。
- 一 文字が一文あるいはまったく判読不能な部分については「・・・・」と表記している。
- 一 「曰」の後ろは一マス空けている。
- 一 「ㄱ」は「コト」とし「事」は「事」としている。
- 一 原本の一行ごとに「/」を入れている。
- 一 【 】は説明である。
- 一 日誌の日付ごとに段落を付している。
- 一 原本のページごとにp1, p2・・・と表記している。
- 一 誤字・脱字もそのまま表記している。

p1

珠洲鳳至郡教育協議會日誌第壹号/
 明治十三年七月十日午前十時開議/
 未着 二番 五番 六番 七番 十一番/十二番
 十三番 十六番 十九番 二十番/二十三番
 二十四番 二十六番 三十三番 三十七番/
 三十九番 四十二番 四十三番 四十四番
 四十五番/四十六番 四十九番/
 壹番 壱番組合惣代 坂田 清慎
 三番 十二番・・・・ 松岡 春
 四番 六番・・・・ 石川 ●●
 八番 十番組合惣代 宮野 支三
 九番 八番・・・・ 生島 鍋吉
 十番 十一番・・・・ 荒井 太郎吉
 十四番 十四番・・・・ 奥高 芳遂
 十五番 六番・・・・ 小竹 虎一
 十七番 七番・・・・ 芳野 廣太郎
 十八番 四番・・・・ 山下 忠本
 二十一番 十三番・・・・ 大津 豊宝
 二十二番 十二番・・・・ 花岡 綱栄

二十五番	十三番・・・・	生熊 金作
二十七番	三番・・・・	林 典栄
二十八番	十四番・・・・	木村 業海
二十九番	十八番・・・・	四柳 十寸雄
p3		
三十番	一番・・・・	徳木 義太郎
三十一番	十三番・・・・	瀬川 富太
三十二番	七番・・・・	茶谷 傳右●門
三十四番	十一番・・・・	仲上 松太郎
三十五番	二番・・・・	瀬戸 与三郎
三十六番	二十二番・・・・	飯森 正則
三十八番	十六番・・・・	神村 松太郎
四十番	二番・・・・	河合 余所太郎
四十一番	三番・・・・	大島 周造
四十七番	十四番・・・・	室田 勵聴
四十八番	四番・・・・	永井 崇人
五十番	十番・・・・	殿江 勝太郎
		合計 二十八名

午前十時柝鳴り會員一同昇堂ス此時学務係郡書記勝山修/蔵臨會ス/十一番組合惣代會員新井曰 先ツ會長ヲ撰挙セシ/十三番組合惣代會員大津曰 然リ依テハ會長撰挙マデ/仮ニ瀬川氏へ依頼シテ如何/十三番組合惣代會員瀬川曰 仮會長ハ勝山郡書記へ依頼シタシ/同組合惣代會員生熊曰 瀬川氏ノ説ニ同意原来會長撰挙/前ノ仮會長ハ會員外ニテ説ルヲ可トス然ラサレハ/

p2

會長ト撰挙ノ時ニ際シ或ハ云フ可ラサルノ弊害アランカ/終ノニ全會一致之レニ可決ス依テ會員惣代トシテ十三番組合惣代會員瀬川之レヲ勝山郡書記ニ要請ス/勝山郡書記曰 會場ハ片時モ會長ナカル可ラス 而シテ各員ノ要/請モ事止ヲ得ザル次第且ハ例拠モ少ナカラサル訳ナレハ會長撰/定マテハ敢テ各員ノ望ニ應セン/爰ニ於テ勝山郡書記起テ會長ノ欠席ニ着キ即チ曰 各員ノ/要メニ由リ暫ク本席ヲ汚ス/ト畢テ衆員ニ番号ノ抽籤ヲナサシム其番号左ノ如

シ／

仮会長（勝山）曰 之レヨリ正副會長撰挙スヘシ／四十七番（室田）曰 先ツ議事規則等ヲ決シ面後會長ノ撰挙ノニ及ハン之レ初対面ノ人ヲク為メニ撰挙ヲ誤ランコトノヲ恐ルレバナリ故ニ少シニ行モ後トヘ延バシタシ此段献議ス／八番（宮野）曰 四十七番ニ同意願クハ献議御採用ノ上本日ダケノハ御苦勞ナカラ勤メラレンコトヲ切望ス／三番（松岡）十四番（奥高）之レニ同意ス／仮會長（勝山）曰 只今四十七番ヨリ會長撰挙ノ儀ニ付献議ノアリ一應尤ノ儀トモ思考スルニ付之レヲ當場ノ問題トシノ各員ノ意見ノヲ起立ニ問ハン依テ議事規則等決定後會長ニ撰挙ノスルヲ可トスルモノハ起立アレノ起立全員ノ

p4

仮會長（勝山）曰 全會一致ニ付會長ノ撰挙ヲ後刻ヘ延バサンノ依テハ之レヨリ議事規則ヲ決定スベシノ十八番（山下）献議曰 議事規則討議前本會開場ノ儀ニ付ノ一言シタシ今ヤ鳳珠兩郡教則取極メノ為メ爰ニ本會ヲ開設ノシ本日ヲ以テ當驛訓小学校ノ樓上ニ於テ各員ト相會ノスルヲ得タリ何ノ幸慶カ之レニ若カン豈祝セサル可ンヤ然ルノニ本會ニ於テハ未タ開場式挙行ノ儀ヲ聞カズ實ニ遺憾ト云ノフ可シ依テハ幸ヒ明日ハ日曜事ナレハ二三十分ノ時間ヲ以テノ開場ノ式典ヲ簡略ニ執行シタシ此段會長マテ献ノ議スノ仮會長（勝山）曰 十八番ノ献議ハ一應各員ノ意見ヲ問フベキノモノト認ルニ付之レヲ採用セン就テハ各員ノ所見ヲ発言アリノタシノ四十八番（永井）曰 開場式執行ヲ可トスノ二十五番（生熊）曰 開場式挙行ニ及バズ何トナレハ本會ハ模範ノ教則取極等ノ為メ臨時相會セン者ニテ敢テ祝スルニ足ラズトノ考フ若シ将来ヘ繼續スベキ教育會ノ開設ニ遭ハバ其時コソ本員ハノ欣喜雀躍謹テ之ヲ祝賀センノ三十二番（茶谷）曰 二十五番ヲ賛成スノ十番（荒井）曰 十八番ニ同意一時ノ事ナレバトテ豈喜ブベキヲ祝セサルノ理アラシヤノ四十七番（室田）曰 二十五番ヲ賛成ス其主旨タル開場式ハ虚飾ナリノ

執行スルト否トハ議決ノ良否ニ影響セス故ニ本員ハ実益ヲ主ノ眼トシテ執行ヲ贅事ト思フノ四十八番（永井）曰 開場式ハ虚飾ニ非ス本會ヲ貴重スルノ礼節ナリノ教育者タルモノノ集會ニシテ豈礼節ヲ欠テ可ナランヤ一應ノ

p5

四十七番ノ説ヲ駁スノ二十一番（大津）曰 虚飾ニ非ルノ説ハ四十八番ニ同意然ト雖モ結末ニ至テハ二十五番ヲ賛成スルナリ何トナレハ本員ハ孜孜々々勲励ノ寸時モ徒過ヲ恐ルレハナリ十四番（奥高）曰 本員ノ將サニ言ントスル所ハ業已ニ二十一番ヨリ残ノラズ陳述セリ此上ハ敢テ勇弁セズ二十五番ノ説ニ同意ノ四番（石川）曰

本員ハ十番ト同意ニシテ十八番ノ開場式執行ノ献議ヲ賛成スルナリ独リ怪ム二十五番賛成ノ各員ハ本會ノ開設ヲ喜バザルカノ仮會長ハ論議既ニ分ルノヲ見テ將サニ決ヲ取ランノトス二十五番起テ會長ト呼ブ仮會長ハ之レニ對シテ前ノ説主張カト問フ二十五番然リト答テ止ム爰ニ於テ仮會長ハノ先ツ十八番ノ献議明日開場式執行ノ説ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立十三名ノ次ニ二十五番ノ説開場式執行ニ及バズ云々ノトノ議ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立十五名ノ仮會長ハ過半数ニ付未タ議事規則ハ決定セサレトモノ普通ノ定則ニ依リ二十五番ノ説ニ決スル旨ヲ演術スノ仮會長（勝山）曰 之ヨリ議事規則ニ取掛ラン付テハ只今御ノ渡シ申タル議事則ハ現時十三十四兩組合聯合教員集會ニ行レ居ル規則ナリ本法ニ拠レハ本會員中ヨリ立案委員ヲ撰定ノシ規則編成ノ后各員ノ討議ヲ要スル式ノ手續キナレドモ夫レニテハ貴重ノ時間ヲ費シ為メニ費用嵩増ノ恐レアリ故ニ大抵議ノ変規則ナルモノハ何レモ大同小異敢テ格別ノ差違モ無之ノ誤ナレバノ

p6

便宜十三十四兩組合ノ議事則ヲ参考ノ為メ各員御ノ渡シ申タリ依テハ之レヨリ本則逐條ノ質問會ニ取掛リノ然ル后チ此僦用テ可ナルカ將タ別ニ編成セサル可ラサルカノ意見ヲ承ラン然シ其意見タル見込ノ異ナルヨリ此法ノヨリハ斯ク

スレハ一層善美ナラン杯トノ御説ハ願クハ御見
合セ相成只此促実施シテハ如斯弊害アリト御
見認メノ分ノミ御発議致シ度切ニ會長ニ希望
スル所ナリト畢テノ書記ヲシテ左ノ議事規則ヲ
朗讀セシムノ

○議事規則

第一條ノ凡ソ會議時間ハ五時間ヲ以テ目安トシ
其開閉ハ會長ノ指揮ニ依ルノ

第二條ノ會員着席ノ順次ハ預メ抽籤ヲ以テ之ヲ
定メノ毎會席ニ着クモノトスノ

第三條ノ議案ノ可決ハ通常三次會ヲ經テ決定ス
ルモノトスノ其順次左ノ如シノ

○第一次會 総体論

第一項會員ハ先書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシメ
而後其主旨要領ヲ立案者ニノ

p7

説明セシムノ

第二項 議案ノ旨趣ニ付質問ス可キ事アラハノ
會員ハ會長ノ許可ヲ得テ其弁明ヲノ求ムルヲ得
而テ立案者ハ必會長ニ向テノ之レヲ説明スベシ
ノ

第三項 質問既ニ終レハ會員ハ議案総体ニ付ノ
可否ノ討論ヲナスヘシノ

第四項 総体論ノ終リニ於テ議案ノ趣旨ノ可
決スル時ハ會長ハ第二次會ヲ開キテノ逐條ヲ議
可セシム可シ若シ總体論ノ終リニ於テ議案ノ旨
趣ヲ可トスルモ其方法ノ改良セサル可ラスト
議決スル時ハ會長ノ之レヲ委員ニ交附シテ修正
議案ヲ作ラシメ更ニ通常ノ手續ヲ以テ第一次
會ヲ開ク可シ若シ又總体論ノ終リニ於テ議案ノ
可トセサル時ハ第二次會ハ無論開カサル可シ
ノ

○第二次會 逐條議

第五項 會長ハ前會ニ於テ總体ヲ可決シタル
ノ議案ヲ逐條討議セシメンカヲ為メ書記ヲシテ
更ニ毎條ヲ朗讀セシメ會員ヲシテノ審ニ討議セ
シメ其條ノ可否ヲ決シテ後ノ次條ニ及ハレム可
シ 但シ議案ノ性質議ノ事ノ都合ニヨリテハ或ハ
數項ヲ聯絡シノ或ハ一條ヲ數節トシ又ハ修正動
議ノ諸節ノヲ分別シテ之ヲ討議議決セシムルヲ

得ノ

第六項 逐條ヲ議スルニ当リテ建議ヲ端各過
半ノ

p8

數ニ至ラサルトキハ小會議ニ附シテ之ヲ議シ
更ニ本會ニ復シテ決定ス可シ其修正委員ノ撰
定スルト否トハ小會議ノ決スル所ニヨルノ

第七項 逐條議ノ終リニ於テ會長ハ書記ヲシテ
ノ修正諸説ノ可決セシ者ヲ輯録セシメ之レヲノ
修正案トナシ原案ト共ニ第三次會ノ議ノ案トス
若シ修正案若クハ原案ニ向テノ章句文字ノ更正
ヲ要スル事アラハ會員中ノヨリ三名ノ修正委員
ヲ投票シテ之レヲ修ノ正セシメ然リ后小會議ニ
付シテ修正文字ノノ當否ヲ決セシムノ

○第三次會 確定議

第八項 會長ハ書記ヲシテ議案即修正案ヲ毎條
ニ朗讀セシメ其可否ヲ問テ議決ヲ確定スノ

第九項 確定議ニ於テハ一旦第二次會ニ議決セ
ル修ノ正案ヲ廢棄スルトキハ會長ハ仍ホ原案ニ
付シテ可否ヲ議決セシム可シノ

第十項 確定議ハ可否ノ決議ナレハ更ニ動議若
クハノ修正意見ヲ出スコトヲ得スト雖モ若不得
止ノヨリ發言ヲ求メサル可ラスト思惟スルノノ
會員アラハ則第二次會ノ手續ニ抛リ意ノ見ヲ陳
述スベシ但シ 此意見ハ五名以上ノ賛成者アル
ニアラサレハ動議タルヲ得スノ然レトモ一度
動議トナリシ上ハ會長ハ更ニ可ノ否ヲ問フテ議
決ヲ確定スベシノ

p9

第四條ノ

會長ハ討議中會員ヲ制シテ規律ヲ守ラシメノ如
何ナル場合ニ於テモ發言ヲ止ルヲ必要ト見認ノ
ル時ハ之ヲ止ルヲ得ノ

第五條ノ

會員ハ説明或ハ答弁ニアラサレハ一儀題ニ再度
ノ陳述ヲ許サズノ后陳述ノ要請ニ付他ノ譯義
ヲ解釈センカヲ為メ若クハ當説非ナルヲ悟リ不
得止之レヲノ元ニ歸シテ更ニ意見ヲ述ン等ハ此
限ニアラズノ

第六條ノ

會議中發言セント欲スル會員ハ先ツ起チテ會長ノ某番ト呼ヒ發言セント欲スルコトヲ知ラシム會長ハノ其會員ノ番号ヲ呼ヒ其會員ヲシテ發言先ノ何ノ番タルヲ分ラシム 尚同時ニ二人以上起立スル時ハ會ノ長其一人ヲシテ發言セシム討議問答ト雖モ必會長ニノ向テ演述スヘシ 相互ニ応答スルハ許サスノ

第七条ノ

会場ニ於テハ會長ノ名ヲ呼ハスシテ會長ト呼フ可クノ又會長會員ヲ呼ヒ或ハ一會員他ノ會員ノ事ヲ言ハンノトスル時モ其名ヲ呼ハスシテ番号ヲ呼フ可シノ

第八条ノ

會員發言中ハ他ノ會員静黙シテ其發言ヲノ満場ニ調達セシムルヲ要スノ

第九条ノ

凡一事件未タ終ラサルニ他ノ事件ニ發言ス可ラスノ

p 10

第十条ノ

議案ノ総体或其一ノ會長發言セント欲スルノ時ハ書記ノ朗読ノ後ニ於テ其事ヲ述ヘ副會長ノニ席ヲ讓ル可シ副會長亦發言セント欲スルヲ以テノ其席ニ在ルコト辞スル時ハ會長ハ會員中ニ一員ヲノ指名シ己ニ代ラシメ自ラ會員席ニ着テ發言スルヘシ其総体或ハ其一ノ議決シタル后ヲ待テ會ノ長ハ再ビ本席ニ復ス最モ會員席ニ列スル間ハノ権限他ノ會員ト異ナルナシノ

第十一条ノ

正副會長其疾病事故ニヨリテ出席セサル時ハ更ニ仮會長を撰挙スヘシノ

第十二条ノ

但●●●●●各會員ヲシテ選挙或ハ起立ノセシムル等ヲ以テ之ヲ表スルハ時宣ニ從テ會長之レヲノ指揮スヘシノ

第十三条ノ

緊求性ナキ動議ハ間議ヲ開キ決スノ

第十四条ノ

議案朗読ノ後凡五分時間誰レモ發言ナキトキハノ會長ハ會員認可ト見做シテ次案ヲ朗読セシノ

ムルヲ得ノ

第十五条ノ

會員ハ持説ヲ伸ブ事独リナルノ場合タリトモノ議決ノ後ニオテ参考ノ為メ意見書案ノヲ作り書記ヲシテ保存セシムルヲ得ノ

p 11

第十六条ノ会場ニ於テハ幕謹齋肅ナル可シ私語又ハノ喫烟スルヲ禁ス尤會長ノ許可ヲ得ズシテノ席ヲ離ルルハ少間禁タル可シノ

第十七条ノ

記事ノ始終葉撃折ヲ以テ之ヲ発スノ

第十八条ノ

此議事規則ニ附追スルノ建議アリテ會ノ長之ヲ必要ナリトセハ通常ノ手續ヲ以テノ之ヲ議決スヘシノ畢テ仮會長演述シテ曰 本則ハ曾テ十三番組合ノ或ル学ノ校ヘ拙者在勤中立案セシ者ナレハ別ニ答弁者ヲ設ケサルニ付各ノ員不審ノ廉ハ直ニ會長ヘ質問アリタシト爰ニ於テ第一條ヨリ逐條質問アリ仮會長逐一之レニ答ヘ而シテ漸次第六條ニ及ノブ干時特限器鏘然トシテ十二時ヲ報ズ依テ仮會長ハ午ノ食ヲ命シ衆員退場スノ午后壹時再開議ノ未着午前ノ如シノ午后壹時撃折ノ報道ニ依リ仮會長及會員各其席ニ着ノキ仮會長ハ起テ午前ノ續キニ取掛ル旨ヲ演述シ夫レヨリノ各員午前ノ通り交互質議仮會長一々之レニ應答ス畢ノテ仮會長ハ各員ヘ發言ヲ命スノ十番(荒井)曰 逐條會長ノ質問ニテ至当ノ則タルヲノ

p 12

了解シタル此俟ニ実施シタシノ二十一番(大津)十四番(奥高)十五番(小竹)三十六番(飯森)各十ノ番ニ同意ノ旨ヲ發言ス依テ仮會長ハ念ノ為メノ十番ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立ノ全員ノ仮會長ハ全會一致ニ付之レニ決定セシ旨ヲ告ケ併セテ只今ヨリノ直ニ実施スル趣ヲ陳述スノ三十二番(茶谷)献議シテ曰 議事規則第一條ニ拠レハ會議時間ハ五ノ時間云々トアリ而シテ會長ノ説明ニテハ純然タル議事ノ時ノ間ニテ即チ八時開會ナラハ二時閉會九時開會ナラハ三時閉會ノ主旨ノ由ノ夫レニテハ随分各員モ疲労

スル事ト考ルニ付適宜休憩ノ／時間ヲ加ヘタシ
 〆仮會長（勝山）曰 三十二番献議ハ各員ノ意見ヲ問フテ／然ルベク思考スルニ付之レ●会場ノ問題トスヘシ依テハ各員ニ／於テ可否ノ意見ヲ陳述アリタシ／八番（宮野）曰 午食時間ノ中間ニ在ルトキハ敢テ休憩時間ヲ其他ニ／設ルニ及バズ只七時開會ノ十二時閉會トカー一時開會ノ六時閉會／トカノ五時間議シ續キノ節ハ中ニ暫時ノ／休憩時間ナクテハ各員ノ疲労モ甚シカラン依テ此辺ハ臨／機ノ処置ヲ會長ヘ依頼シ別ニ規則上ヘハ明文ヲ追加スルニ及バ／ズト考フ尤明文云々ノ議ハ三十二番ノ献議中ニナント雖モ一言意ノ見申シ置ク／四十七番（室田）曰 休憩ハ無用ナリ貴重ノ議事時間ヲ費ス／ハ本員ノ屑シトセサル所且ハ我輩ノ本分ニ非スト考フ／三十一番（瀬川）十四番（奥高）八番ヲ賛成ス／仮會長（勝山）曰之レヨリ動議ヲ取調ベシ四十七番ノ説ニ賛成者ノ

p 13

之依テ規則ニ拠テ之ヲ廢案ス依／テハ八番ノ説ニ同意ノ者ハ起立スベシ／起立 二十五名／仮會長ハ過半数ニ依リ之レニ決スル旨ヲ陳ベ且曰ク今ヨリ正副會／長ノ撰挙ニ取掛ルベシ就テハ投票ニ種々ノ例アリテ同時ニ／正會長ハ誰副會長ハ誰ト區別ノ上兩名ヲ投票スルアリ先ツ會／長ヲ撰挙シ然ル後チ副會長ノ撰挙ニ及ブアリ正トナリ副／トナリ同時ニ會長兩名ヲ投票シ其最モ多数ヲ得ルノモノヲ會長トシ次点者ヲ以テ副會長トスルアリ今本會ノハ三例中何レヲ標準トスベキヤ會長ニ於テ第三例ノ手續ノキヲ可認スレドモ併シ會長撰挙ハ會中ノ大事件ニ付ノ鄭重第二例ニ拠ルヘキヤ各員ノ意見ヲ問フノ四十七番（室田）三十二番（茶谷）二十五番（生熊）各第三例ニ準ルヲ／可トス依テ同時ニ二名ヲ投票スベキ旨ヲ陳述ス此時四十七番ノ會員等ヨリ組合ヲ定メ幹事ヲ設ケ諸傳達ヲ掌ラシムベキ献議ノ出テ終ニ會場ノ可決スル処トナリシヲ以テ更ニ仮會長ハ十ノ番毎ヲ一組合トシ幹事ヲ組中ヨリ撰挙スベキヲ命ス尤ノ出會員數過半数ニ至ラサル組合ハ他日俟テ撰挙スベキ旨ノヲ陳ベ畢テ

書記ヲシテ正副會長撰挙点数ヲ調査セシムノ其數左如シノ

十四点	三十一番	會員	瀬川 富太ノ
十一点	二十一番	會員	大津豊憲ノ
八 点	四十七番	〃	室田勵聴ノ
五 点	廿五番	〃	生熊金作ノ
合	十番	〃	荒井太郎吉ノ
四 点	十八番	〃	山下忠本ノ
p 14			
二 点	十四番	〃	奥高芳逐ノ
合	十七番	〃	芳野廣太郎ノ
一 点	四十一番	〃	大島周造ノ
合	四番	〃	石川露吉ノ
合	八番	〃	宮野友三ノ
合	三十番	〃	徳木義太郎ノ
合	不詳ノ		

依テ會長ハ三十一番副會長ハ二十一番兩會員ノ当撰者タルノヲ仮會長ヨリ報道シ各承諾ヲ得タリ次ニ組幹事当ノ撰人ヲ調査ス其人名等左ノ如シノ

第一組幹事当撰	十番會員	荒井太郎吉ノ
第三組	廿五番〃〃	生熊金作ノ
第四組	三十二番〃〃	茶谷傳右エ門ノ

右畢テ各承認ノ旨ヲ仮會長ヨリ報道シ之レニテ本日ノ會ヲ閉ヂ衆員退散ス時ニ三時四十分ノ本日傍聴人 午前午後 四十三名ノ

p 15

珠洲郡教育協議會日誌第弐号ノ
 明治十三年七月十一日午前十時開議ノ
 欠席 二十五番 五十番ノ
 未着 二番 五番 六番 七番 十一番 十六番ノ十九番 二十四番 二十六番 三十三番ノ三十七番 三十九番 四十一番 四十三番ノ四十五番 四十六番 四十九番ノ
 午前十時撃柝ノ報道ニ依リ會長會員及勝山郡書記等各昇ノ堂其席ニ着席一同正礼ス畢テ書記起テ新來ノ會員ヲ各員ヘノ紹介シ抽籤ヲ以テ番号ヲ定ル左ノ如シノ
 十二番 十二番 組合惣代 泉口高壽ノ

十三番 二十二番 組合惣代 橋本政次/
 二十番 十七番 組合惣代 慶塚賢證/
 二十三番 十五番 組合惣代 宮川直吉/
 四十四番 十番 組合惣代 平田壽方/

p 16

次ニ會長(瀨川) 演述シテ曰 本刻ヨリ称々模範教則ニ取掛ルベシ就キテハ/立案者ノ未タ臨會ナキヲ以テ仮ニ説明書ヲ議題ト見做シ審議スル方議/事ノ都合宜シキヤト考ルニ付便宜説明書ヲ以テ當場ノ間/題トスベシト書記起テ議案ヲ朗讀ス/二十一番(大津)曰 議題ニ答弁者ナキハ不都合ナリ/故ニ各會員互ニ見解セシ所見ヲ陳述シ最モ/妥当ト認ルモノヲ仮リニ立案ノ精神ト見做シ而後議事ニ/取掛テ述ルベク此段献議ス/二十二番(花岡)曰 教則ノ説明書ナルヲ先ツ之レヲ議スルトハ不可ニ/アラズヤ/會長(瀨川)曰 説明書ハ立案者ノ精神ナリ/故ニ立案ノ精神ヲ知ラズシテ編制セシ教則ヲ議スルハ事ノ/宜キヲ得タリト云フベカラス之レ説明書ヲ先ニセン所以ナリ/二十二番(花岡)曰 了解セリ/三十二番(茶谷) 四十七番(室田) 二十一番ノ説ヲ敷衍シ會長ヘ献議ノ採用ヲ/要メ十五番(小竹)ハ説明書ナキニ議事ニ取掛ルハ不都合ト述ブ爰ニ於テ會長ハ/前ノ演述ヲ取消シ更ニ模範教則ヲ議題トスルヤ否ノ/発言ヲ命ズ/四十七番(室田)曰 模範教則ヲ本會ノ議題トシ説明書ヨリ逐/條討議シタシ/

p 17

二十一番(大津)ハ之レヲ賛成シ而シテ他ニ發議ナシ依テ會/長ハ議事規則ニ依リ全會認可ト見做シ/説明書ヨリ討議スヘキ旨ヲ演述ス次ニ二十一番(大/津)ハ前献議ヲ再演シ四十七番(室田) 四十一番(大島) 十四番(奥/高) 十七番(芳野) 各之レヲ賛成シ會長ヘ献議ノ採用ヲ要/請ス/依テ會長(瀨川)ハ二十一番ノ献議ヲ採用シ/●シ依テ各員ノ所見ヲ陳述アリタシト演述ス爰ニ於テ論議百出/殆ト拾収ス可ラス終ニ午後ニ讓ルベキニ評決シ各員退場ス時ニ零時二十分/午後七時三十分再開議/未着欠席午前ノ如シ/

午後七時三十分會長及會員等各其席ニ着キ一同正礼ス/次ニ會長ハ午前二十一番ノ献議ハ控所ニ於テ廃棄ノ/議ニ決シタレハ之レヨリ説明書緒言ノ審議ニ取掛ルベシト陳/述シ書記起テ左ノ緒言ヲ朗讀ス/此説明書ハ今回制定シタル教則課程ノ組織及ヒ用書ノ/撰定等従来行ハレシ教則ニ異リタル旨趣ヲ開陳スルモノナリ然レトモ其重要ノ者ノミヲ挙ケテ詳細ニ及バズ/十八番(山下)曰 説明書ノ義ニ付キ午前二十一番ヨリ献議アリテ當場ノ/問題トナレリ右ハ如何決セシカ敢テ會長ヘ質ス/會長(瀨川)曰 先刻演述セシ通り廃棄トナレリ/十八番(山下)曰 廃棄トハ何ゾ午前ニハ中止トナリ午後ニハ直ニ本/

p 18

題ニ取掛レリ會長ノ演ベラル/所ノ如キハ本員ノ甚タ惑フ所ノナリ/會長(瀨川)曰 休憩時間ニ小會議ヲ開キ即チ廃棄トナレリ/現ニ之レヲ手續ハ十八番ノ熟知セシ所ナラズヤ/十八番(山下)曰 尤知レリ然レトモ右ハ昔ニ廃棄スレハ「善カロー」ト打/合セシノミ決シテ廃棄ニ決セシニ非ス抑モ小會議ニ決スルノ權/ナキヤ/各員ノ了知スル所然ルニ會長ニ於テハ飽マテ決定ノ旨ヲ固執セラルトハ議事規則ニ抵触セサルカ/會長(瀨川)曰 決シテ抵触セス小會議ト雖トモ事柄ニ依リテハ/決定スルノ權アリ尚ホ熟考アリタシ/十八番(山下)曰 熟考セヨトナラハ暫ク黙止スベシ/二十一番(大津)曰 本條ヲ削除シタシ/十番(荒井)之レヲ賛成ス/十七番(芳野)曰 原案ヲ可トス/四十七番(室田)曰 二十一番ニ同意併シ削除ニ及バズ後ト廻シニシタ/シ/十八番(山下) 四十一番(大島) 八番(宮野) 二十二番(花岡)之レヲ賛成シ/十七番(芳野) マタ前説ヲ取消シテ四十七番ヲ賛成ス/十四番(奥高)曰 二十一番ハ緒言ハ不用ト認メテノ削除カ將タ別ノニ見込アリテノ叵カ/二十一番(大津)曰 本員ノ所見ハ不用ト認ム/十番(荒井)曰 本員ハ先刻二十一番ヲ賛成センカ只今二十一番ノ/弁明ヲ聞クニ大ニ本員ノ精神ト異ナリ依テ本員

ハ之レノ

p 19

ヲ取消スベシノ二十一番（大津）ハ起テ前説ヲ主張シ四十七番（室田）モ亦自説ヲ維持スノ愛ニ於テ會長ハ四十七番ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立 二十八名ノ過半数ニ付四十七番ノ説ニ決ス次ニ會長ハ之レヨリ次條ニ取ノ掛ル旨ヲ演述シ書記起テ議案ヲ朗讀スノ尋常小学教則ノ一

凡児童ハ云々ノ二十二番（花岡）曰 学期ヲ四年トシタシノ十七番（芳野）十四番（奥高）四十一番（大島）之レヲ賛成シ四番（石川）ノ三十二番（茶谷）八番（宮野）二十一番（大津）十八番（山下）四十七番（室田）ノ各二十二番等ヲ駁シテ原案ヲ維持シ四十一番（大島）モ亦前説ヲ取ノ消シテ原案ヲ可トスノ會長（瀨川）曰 最早論議モ分レタレハ之レニテ決ヲ取ルベシト陳ノベ先ツ二十二番ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立 七名ノ小数ニ付消滅次ニ會長ハ原案ヲ可トスル者ヲ起立セシムノ起立 二十四名ノ過半数ニ付原案ニ決ス次ニ會長ハ書記ヲシテ次項ヲ朗讀ノセシムノ一 女子ハ云々ノ四十一番（大島）曰 容儀トハ何等ノコトカ各員ノ明解ヲ乞フノ十番（荒井）曰 容儀ハ即チ行儀ナリ例セハ配膳方等全テ起チ居ノ振舞ニ関スル礼儀ニテ男子ノ体操ニ代ヘシモノノト考フノ十七番（芳野）曰 容儀モ試験スルノ精神ナルカ四十一番ノ例ニ抛リノ

p 20

謹テ各員ノ示教ヲ乞フノ三十二番（茶谷）曰 必ス試験スルノ精神ナランノ十八番（山下）曰 三十二番ト同意ノ十番（荒井）曰 先刻モ申セン通り女子ノ容儀ハ男子ノ体操ノニ代ヘシ者ナリ然スレハ試験ハ無論成サザルモノト考フノ四十一番（大島）曰 容儀ヲ訓スレハ「カタチノノリ」ナリ然ルニ十番會ノ員ハ体操同様ニ言ハルハ了解シカタクノ十番（荒井）曰 成程容儀ハ「カタチノノリ」ナリ故ニ体操其物ノ性ノ質ト容儀其物ノ性質ヲ論セバ固ヨリ同様ニアラス然レトモ身ノ体ヲ運動セシメ体力ヲ養フノ一点ニ至テハ同一ノ目的ナリノ同一ノ精神ナリノ

之レ本員ノ同様ト云ヒシ所依テ前説ノ不足ヲ補フノ四十七番（室田）曰 試験不要ノ一点ハ十番ニ同意ト述ブノ十七番（芳野）曰 容儀体操云々ハ十番會員ノ説明ニテノ略ホ了解セリ然レトモ体操ハ各級同一ニシテ独リ容儀ハ級別ノニ差異アルハ如何ノ二十一番（大津）獻議シテ曰

先刻ヨリ各員ノ討論ヲ承ルニ往ノ々々試験ノ有無ニ論及スルアリ右ハ議題ニ関係ナキ事ナレハ會長ノニ於テ差止メラレンコトヲ切望スノ四十七番（室田）曰 本員ハ十七番ノ質疑ニ答ヘン容儀ヲ級毎トニノ區別センハ生徒ノ脳カト更柄ノノ難易ニ應セシモノト思考スノ四十一番（大嶋）曰 本員ハ男子ニモ容儀ヲ課シタシノ十七番（芳野）曰 先刻二十一番會員ノ獻議モアリシカ末夕御採用ノモ無レハ敢テ一弁セン本員ハ到底試験ノ有無ニ依テ所見ノヲ異ニスレハ是非試験ヲスルト否トノ決議ヲ承リタシノ

p 21

三十二番（茶谷）曰 試験ノ有無ニ関セズ本項ヲ議シテ可ナリノ八番（宮野）之レヲ賛成スノ十四番（奥高）曰 容儀ハ到底實際ニ行レカクシ本員ハ削除スルヲ可トスノ四十七番（室田）曰 本員ハ原案ヲ可トスノ三十二番（茶谷）曰 本員ハ適宜ニ授ルトシタシノ二十一番（大津）曰 本項ハ市街ニ必用ニシテ村落ニハ不用ナリノ依テ村落ニハ行ハサル事ト致シタシノ十番（荒井）八番（宮野）三十五番（瀨戸）十七番（芳野）各三十一番ヲ駁シテ原案ノヲ維持シ四番（石川）ハ二十一番ヲ駁撃シテ三十二番ノ説ヲ敷衍ノスノ十四番（奥高）曰 本員ハ飽マテ削除ノ精神ナレトモ現勢ニテノハ底到行レサレハ遺憾ナカラ前説ヲ取消シテ三十二番ノ説ノニ同意スノ二十二番（花岡）曰 二十一番ノ説ハ多数ノ反体者ノ考メニ殆ト撃破ノシ尽サレントス実ニ惜ムヘシ故ニ本員ハ之レヲ賛成ノスノ愛ニ於テ十四番（奥高）十八番（山下）ハ持説ヲ主張シテ二十一番ヲ駁シ二十一番（大津）ハカヲ尽シテ前説ヲ維持ス會長ハ議論ノ較ヤ尽ルヲ見テ起立ヲ命スルニ左ノ如シノ二十一番ノ説ヲ可トスル者 八名ノ三十二番ノ説ヲ可トスル

者 九名／原案ヲ可トスル者 十四名／會長ハ各説過半数ニ至ラサルニ付小會議ニ附スベ／キ旨ヲ演述シ畢テ第二組ノ幹事ヲ撰挙セシム其当／

p 22

撰人左ノ通／第二組幹事当撰 十五番會員 小竹虎一／之レニテ本日ノ會ヲ閉ツ其時午后四時三十分各員退場ス／本日傍聴人午前午后共六十名／

珠洲郡教育協議会日誌第四号ノ／

明治十三年七月十三日午前第十時十分開會／

欠席 壱番 五十番／未着 五番 六番 十六番 十九番 二十四番／二十六番 三十七番 三十九番 四十二番／四十三番 四十六番

四十九番／

午前十時十分會長會員及勝山郡書記等各昇堂其席ニ着キ／一同正礼ス畢テ書記起テ九番組合惣代中村道隆ヲ各員ヘ紹／介シ而シテ抽籤ヲ以テ四十五番ノ席ニ着カシム次ニ會長其席ニ／起立シ演述シテ曰ク之レヨリ昨日ノ續キ算術説明ノ項ニ取掛／ラン／二十五番（生熊） 献議シテ曰

開會以來指ヲ屈スレハ日タル三日而シテ其議／了セシ所ヲ反省スレハ僅々容儀ノ一項ニ過キス／由是觀之本會全ク結了ニ至ルノ日ハ前途／

p 23

漠遠豫メ期スル触リズ實ニ大奥ノ至ナリ依テ拙員ハ深く思フ焦／シ辛フシ／テ一計ヲ按出セリ其方法タル敢テ新奇ノ各説ニ非ス／單ニ説明書ノ討議ヲ廢スル是レナリ其理由如何ト云フニ／説明書ハ立案者其人ノ教則組織ノ精神ヲ説キ明カセシ／者ナレハ尋常小学教則トアル凡例ヨリ討議スルトキハ勢ヒ説／明書ヘ連及スルヤ必然ナリ果シテ然ラハ今ニシテ之レヲ議スルハ賛中ノ贅事恐クハ坤輿無用のノ親／玉ナラン故ニ切ニ望ム各員余力献議ニ同意シ一刻モ早く／尋常小学教則ヨリ審議センコトヲ／三十二番（茶谷） 四十七番（室田） 七番（館谷） 四十一番（大島）ノ各員續／々二十五番ノ献議ヲ採用アリタシト發言ス／會長（瀨川）曰 二十五番ノ献議ヲ可トスル者ハ起立アレ／六名外 惣起立／會

長（瀨川）曰 多数ノ求メニ依リ本場ノ問題トスベシ各／員乞フ意見ヲ發言アリタシ／十四番

（奥高）曰 二十五番ノ献立ハ余程尤ラシク聞ユレトモ／議論ノ骨髓タル時處位ノ材料ヲ●ヘサルノ説ナリ何ト／ナレハ本會ノ如キハ議案ノ趣旨ヲ解釈ス／ベキ番外其人ヲ欠キ加ルニ會員幼稚ニシテ議度ニ熟セズ／此時ニ際シテ説明書ヲ討議セズ通常ノ手續キヤ／以テ小学教則ヘ向テ議論ヲ下サバ或ハ恐ル論説ノ正鵠ヲ／失ヒ為メニ議事ノ混雜ヲ生センコトヲ故ニ本員ハ二十五番ノ會員献議ノ精神ヲ賛成シ其方法タル説明書ノ討議ヲ／中止スルヲ不可トス

十番（荒井）之レヲ賛成シテ曰ク十四番ノ説眞ニ本員ノ心ヲ／

p 24

得タリ依テ今一言ヲ●テ之レカ勢力ヲ助ケン原來課程ハ／教則ヨリ出テ教則ハ説明書ヨリ生出ス然ルニ之レカ生母タル説明書ヲ説明者ノ不在ニモ拘ラズ一概ニ傍棚ニ擱束シ置カ

ントハ豈順序ノ宜キヲ得タリト言フ可ンヤ騎尾ニ附シテ一／言ヲ申置ク／四十一番（大島）曰

本員ハ稟性甚タ訥弁ナレハ單ニ所見ヲ／述ペン十四番ノ十番ノ説ハ重複ニ飽マデ二十五番ノ説ヲ可トス／十七番（芳野）ハ二十五番ヲ賛成シ四番（石川）ハ／二十五番ノ説ヲ駁ス／二十五番（生熊）曰 先刻ヨリ反体論者ハ順序々々ト一概ニ拘泥アレ／トモ教則ヲ議スルニハ發明ヲ考照スルハ固リナシ反体／論者少ナクモ猛省スル所アレ／十番（荒井）曰 二十五番ハ頻リニ雄弁ヲ以テ説明書ヲ議スルニ／及バストアレトモ例セハ議案ト説明トハ尚ホ議事ノ可否説ト其所以トヲ／陳述スルカ如シ會員諸君ニシテ／其可タル否タルノ所以ヲ陳述セズ單ニ／原案ヲ可トストカ否トストカト而已ノ發言ニテ豈諸君心中ニ於／テ満足アラシヤ／二十一番（天津）ハ十番ヲ可トシ二十二番（花岡）ハ二十五番ヲ可トス／三十二番（茶谷）曰 會員諸君ノ顛倒説ニ本員ハ先刻ヨリ一驚／ヲ喫セリ各員試ニ思ヘ教則アリテ始テ説明ノアルモノ／ナリ而ルヲ説明ハ基礎トカ根本トカ種々勝手ノ名称ヲ附／

シ先ツ之レヲ討議セントハ顛倒モ亦甚シカラズヤ／四十七番（室田）ハ二十五番ノ説ヲ助ケ四番（石川）ハ之レヲ駁シ／

p 25

テ十四番ノ説ヲ敷衍ス二十五番（生熊）十四番（奥／高）各奮テ持説ヲ主張シ論勢鋒鋭烈ヲ極ム爰ニ於テ／十七番（芳野）献議シテ曰論議激烈為メニ聴／衆社會ヨリ痛快ノ喝采ヲ博スルモ時間ノ経過ヲ如何セ／ンヤ而シテ其論点タル二十五番ノ献議ヲ採用スルト否トノ／二点ニアリテ甚タ決議ニ困難セス乞フ起立ヲ命セラレシコト／ヲ／會長（瀬川）曰 十七番ノ献議至当ト雖トモ會長ニ於テモ一／言ヲ陳ベタケレハ會員諸君特許ヲ得テ敢テ／鄙見ヲ發言シタシ依テ副會長ニハ暫シ代理アラシコト／ヲ乞フ／副會長ハ意見アリトテ之レヲ辞ス依テ十番（荒井）十七番／（芳野）三十二番（茶谷）へ逐次會長ノ代理ヲ指命／スレトモ各員挙ク所見ヲ主張シタシトテ之レヲ固辞ス依テ／副會長已ヲ得ズ自説主張ヲ投棄シ會長ノ命ニ應ズベシトテ會長ノ席／ニ着ク／三十一番（瀬川）曰 本員ハ十四番及十番ト大同小異ナリ依テ自／説ヲ伸バス触ハズンハ扨テ十番ニ同意セン大同トハ何ソ／先ツ説明書ヲ議スル之レナリ小異トハ何ゾ之レニ本會ノ名／ヲ以セズ小會議ノ各称ヲ付スルナリ切ニ望ム十番同意ノ諸／君更メテ本員ヲ賛成センコトヲ／八番（宮野）ハ至極ノ名説トシテ之レヲ賛成シ十番／（荒井）十四番（奥高）四番（石川）ハ前説ヲ扨テ三十一番ニ／同意シ三番（松岡）三十二番（茶谷）四十七番（室田）二十五番（生熊）ハ各自説ヲ敷衍シテ三十一番ノ説ヲ駁撃ス／副會長（大津）曰 本項ハ各員ノ求メニ應シ充分ノ／

p 26

討論ヲ許シタレハ最早決ヲ取ラレ三十一番ノ説ニ同意ノ／者ハ起立スベシ／起立 十名／次ニ二十五番ノ献議ヲ可トスル者ハ起立スベシ／起立 二十五名／過半数ニ付二十五番ノ説即チ説明書ヲ議セサル事ニ決／ス時ニ零時十分依テ副會長ハ午食ヲ命シ各員退／場ス／午后壹時三十

五分再開議／

欠席／未着 午前ノ如シ／

午后壹時三十五分激析ノ報道ニ依リ會長會員及勝山郡書／記等各其席ニ着キ一同正礼ス畢テ會長ハ之レヨリ尋常／小学校教則トアル凡例ノ所ヨリ議スベキカ將タ之レヲ後ニシ五級／前期トアル課程ヨリ議スベキカ各員ノ意見ヲ承リタシト／陳述ス／三十二番（茶谷）曰 石川縣尋常小学教則トアル所ヨリ議スルヲ／可トス／十八番（山下）三十五番（生熊）四十一番（大島）十番（荒井）八番（宮野）／各之レヲ可トス／四十七番（室田）曰 第五級前期トアル課程ノ処ヲ先キニ議シタシ／三十二番（茶谷）曰 敢テ四十七番會員ノ過程ヲ先／ニスルノ理由ヲ承リタシ／四十七番（室田）曰 三十二番ノ求メニ應ゼシ教則トアル所ハ前体ノ／主意書ナリ然ルヲ全体ノ過程ヲ議ゼズシテ先ツ主意／書ヲ議スルトキハ議決ノ如何ニ依テ再ヒ主意書ヲ改議セザル／

p 27

可ラサルニ至ルモ亦知ルベカラス豈不可的ノ説ナラズヤ／二十二番（花岡）曰 本員ハ三十二番ノ賛成者ナリ四十七番ノ説ノ如キハ目シテ自家撞着トセザル可ラズ／教則トアル所前体ノ主意書タルハ四十七番自ラ明言／セリ而シテ前体ノ主意ヲ議定セズシテ先ツ内輪ノ課／程ヲ議セントハ夫レコソ不可的ノ説ナリ謹テ不可的ノ三字ヲ／返呈ス／十七番（芳野）十四番（奥高）各四十七番ヲ駁シ／テ三十二番ノ説ヲ助ク／會長（瀬川）曰 四十七番ノ説ニハ賛成者モ無レハ之レ／ヲ排棄シ三十二番ノ説ニ決スル旨ヲ演ベ書記ヲシテ議／案ヲ朗讀セシム／

石川縣尋常小学教則／

此教則ハ云々／一教科ノ之ヲ五級ニ分チ云々／八番（宮野）曰 石川縣鳳至珠洲郡尋常小学教則ト修正シ此教則／ハ云々トアル一項ヲ削除シ一教科ハ云々ノ項ニ／一日五時間／ノ修業トアルヲ五級ニ限り四時間ノ修業ト修正シタシ／十番（荒井）曰 石川縣尋常小学教則ノ九文字并ニ此教則ハ云々／ノ一項ヲ全ク削除シ一教科ハ

云々ノ中チノ但止ムヲ得ザルノ事故アリテ以下ヲ削リタシノ十四番(奥高)十八番(山下)之レヲ賛成スノ十七番(芳野)曰「教科ハ之レヲ五級ニ分チ毎級分チテ前後ノ二期ノトス」トアルヲ「教科ハ之レヲ八級ニ分チ」ト修正シ一級ハ温習科トカ何トカ適當ノ名称ヲ以テ別ニ設ケタシ徒ニ新奇ノ

p 28

前期トカ後期トカノ名称を用ヒテ俚俗ノ耳ヲ驚カスハノ本員ハ其害ヲ見テ其利ヲ知ラサルナリ餘ハ八番ノヲ賛成スノ二十一番(大津)曰「議事少ク混雑セリ願クハ数節ニ分テ論ノ議セシメラレタシ此段献議スノ會長(瀨川)曰「二十一ノ献議ヲ採用スヘシ就テハ石川縣云々ヨリノ設ル所ナリ迄ニ付意見ヲ發言スベシノ八番(宮野)曰「石川縣ノ下ヘ「鳳至珠洲郡」ノ五文字ヲ挿入シ此教則ノハ云々ノ項ヲ削除シタシノ二十一番(大津)曰「本項ハ此俚後ト廻シトシタシノ十番(荒井)三十二番(茶谷)十五番(小竹)四十七番(室田)ハ二十一ノ同意シ十四番(奥高)四十五番(中村)ハ八番ヲ賛成スノ會長(瀨川)曰「八番ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立 六名ノ次ニ會長ハ二十一ノ説ヲ可トスル者ハ起立アレト演述スノ六名ノ外 惣起立ノ過半数ニ付二十一ノ説ニ決ス次ニ會長ハ一教科ハト云フ所ヨリノ卒業スルヲ得ベシトノ一節ニ付意見ヲ述ベラレタシ演ズノ三十二番(茶谷)曰「原案ヲ可トスノ十七番(芳野)曰

教科ヲ八級ニ區別シ一級前期後期ヲ別科トシタシノ今ヤ新奇ノ名称ヲ設ケ之レヲ分チテ四級トシ前期後期トスルモノ果シテ何等ノ益カアラン寧ロ旧ニ依リテ愚鈍者ヲ驚カサザルノヲ可トス且ツヤ一級ナルモノハ二級以下ト固ヨリ教科ノ性質ヲ異ニスレハ之レヲ別科ニ設ケ而シテ二級ヨリ高等ニ入ルトスルト一級ヨリ高等ニ入ルトスルト何レカ穩当ナルカ各員熟按アノリタシノ

p 29

七番(館谷)四十一番(大島)深ク十七番ノ説ヲ可トスノ四十七番(室田)曰「教科ハ之ヲ五

級ニ分チタルヲ四級ニ分チトシノ滿十一年ニシテタルヲ滿十年ト修正シタシ一級ヲ別科ニスルハノ十七番ニ同意ノ四十八番(永井)ハ四十七番ヲ賛成シ十番(荒井)二十番(慶塚)ノ十四番(奥高)ハ十七番ヲ賛成シ二十一番(大津)ハ原案ヲ可トスノ會長(瀨川)曰「最早決ヲ取ルベシ先ツ四十七番ノ説ノニ同意ノ者ハ起立スベシノ三十番(徳木)四十七番(室田)四十八番(永井)ノ次ニ十七番ノ説ヲ可トスル者ハ起立スベシノ起立 十五名ノ次ニ原案ヲ可トスル者ハ起立スベシノ起立 十六名ノ各説過半数ニ至ラサルニ付小會議ニ付スベキ旨ヲ演ズ第一ノ但書ニ付意見ヲ發言アリタシト述ブノ十番(荒井)曰「但止ムヲ得サル云々ヲ削リタシノ十七番(芳野)二十一番(大津)之レヲ可トシ十八番(山下)四十七番(室田)ノ八番(宮野)二十二番(花岡)二十番(慶塚)四十一番(大島)ハ原案ノヲ賛成スノ三十五番(瀨戸)曰「原案賛成ノ勢力余程烈シ然レトモ思フニノ本郡ノ如キハ敵ニ五時間ノ制度ヲ断行セサル可ラス然ラズンノバ或ハ不締ノ区域ニ陥ラン決シテ立白ノ両山々間ノ村落ト同一視スベカラス飽マテ削除ヲ可トスノ四十一番(大島)曰「成ル程三十五番ノ説味ヒアリ本員ハ前説ヲ取消シ三十五番ニ同意スノ四十七番(室田)十番(荒井)二十一番(慶塚)十七番ノ

p 30

(芳野)三十二番(茶谷)等或ハ駁シ或ハ弁シ甲論乙議ノ殆ト究極ナシ教育令ヲ引証スルアリ管理心得ヲ説明ノスルアリ規則ニ拠ルアリ情実ヲ説クアリ満場騒然依テノ會長ハ急ニ發言ヲ止メ先ツ十番ノ削除説ニ同意ノ者ヲ起立セシムノ起立 十四名ノ次ニ原案ヲ可トスル者起立セシムノ起立 二十名ノ過半数ニ付原案ニ可決ス之レニテ一先本會ヲ閉チ更メテノ小會議ヲ開キ午后四時五十分本會ニ復シテ「一教ノ科ハ云々ノ項ヲ再議スノ四十七番(室田)曰「到底本員ノ説ハ本會ニ行レ難ケレバ更メテ十ノ七番ヲ賛成スベシノ二十一番(大津)八番(宮野)四番(石川)三十二番(茶谷)ハ原案ヲ可トシ十

四番（奥高）二十二番（花岡）七番（館谷）四十一番（大島）三番（松岡）二十番（慶塚）十番（荒井）三十四番（仲上）三十番（徳木）八十／七番ヲ賛成ス／會長（瀬川）曰 最早決議ノ調査ニ取掛ラン先ツ原案ヲ可トスルモノハ起立スベシ／起立 十二名／會長ハ次二十七番ノ説ニ同意ノ者ヲ起立セシム／起立 二十二名／過半数ニ付十七番ノ修正説ニ可決シ是レニテ本日ノ會ヲ閉ツ干時午後五時五十分各員退場／本日傍聴人午前／午後共三十二名／

p 31

鳳至珠洲郡教育協議會日誌第五号明治十三年七月十五日午前九時開會／

欠席 壹番 五十番／未着 五番 六番 十六番 十九番 二十四番／二十六番 二十七番 四十二番 四十三番／四十九番／

午前九時會長會員及勝山郡書記等各其席ニ着ク此時本縣十六等／出仕兼第一師範學校監事上村要次郎模範教則説明ノ為メ出／張即チ番外へ着席シ一同正礼ス畢テ書記起テ新來ノ會ノ員ヲ各員へ紹介シ抽籤ヲ以テ番号ヲ定ル左ノ如シ／三十九番 八番組合惣代 出野音次郎／四十六番 二十二番組合惣代 開 佐次馬／次ニ會長（瀬川）演述シテ曰 昨日第一師範學校ヨリ教則説明ノ為メ態々ト上村教諭ノ出張アリ現ニ本日ヨリ／番外へ着席アリタレハ之レヨリ昨日ノ續キ即チ逐条討／

p 32

議ヲ中止シ更ニ本刻ヨリ質問會ヲ開クベシ／各員乞フ不審ヲ質サレ／タシ／番外（上村）曰 先ツ大体ヲ説明スベシ抑モ模範教則發行ノ趣ノ意タルヤ本縣従前ノ教則ハ加能ニノミ施行スルモノ／ニシテ再來兩越ヲ合併セシヨリ為メニ教則区々ニ陟リ其ノ鍼路一ニ帰セズ故ヲ以テ従前ノ教則ヲ改正シ一様ニ帰スルノ趣旨ニテ縣廳ヨリ教則編制ノ上御下問ノ更モ有之又師範ノ學校ニ於テモ教則改正案ヲ起セシ事屢アリシカドモ皆行／ハレズ尋テ準則ノ發行アレドモ充分ノ信向ヲ得ズ且再來教育ノノ進歩ニ應ジ到底改正セザルヲ得ザルニ際シ教育令ノノ領布アル有テ

教育ノ体面モ大ニ改リ彼是ニ就キ改正ヲ要セシ／所以ナリ加旃従前ノ教授方法ハ素東京師範學校ノ体裁ノニ倣ヒ來タレトモ実験ヲ經テ漸ク發明セシ処モ多クアレバ以後ハ／是迄ノ如ク徒ニ畫一ノ体裁ヲ求メズ教授者ノ意見如何ニ抛／リ廣ク授業方法ノ活用ヲ求メ一層精密以テ益々進歩ヲ計ランコトヲ冀望スルニ至レリ是亦改正ヲ要スル以所ナリ／又学科ノ組立タル主トシテ教ノ育令ノ旨趣ニ基キシモノト雖トモ又他ノ理論上ヨリ出ツルモノモ／無之ニアラズ然リ而シテ尋常小学ノ学期ヲ下等小学ヨリ／伸バセシハ縣下ノ情態ヲ察シ高等小学ヲ受ル能ハサルモノハ／為メニ二期即チ壹ヶ年ヲ伸ハシ修業科ノ不足ヲ補ヒ以テ／普通壹般ノ更ヲ知ラシメ実地應用ノ途ヲ開カンカ為メニ置／クモノニシテ固ヨリ高等小学科ハ受ケザルモノナリト云フニアラズ目下ノ実況ニヨリ止ムヲ得ズ此方法ヲ設ケシ更ハ説明書ノニモ出タリ尤モ此模範教則ハ三師範學校打合セノ上将来縣／

p 33

下教則ノ標準ヲ示サンカ為メニシタル者ナレハ向フ拾餘年間ノハ必ス改正ヲ加ヘサルノ見据ヲ以テ定メタルナリ乞フ各員ノ此意ヲ諄セラレタシ／會長（瀬川）曰 之レヨリ逐条ノ質問アリタシ願クハ一條ノ質問ノ全ク了ラサル中ハ他條ノ質問ヲ見合スベシ／十番（荒井）曰 教科ヲ五級ニ分チ前後ノ二期ニ改メラレンハ如／何ノ御趣意ナルヤ／番外（上村）答曰 尋常小学ニ於テ壹年ノ学期ヲ増セシニ依ル如／何トナレハ壹年ヲ増セハ則チ学期ハ二期ヲ増スハ勿論然ルヲ従前ノノ通り一期一級ノ制トシテハ為メニ十級トセサルベカラス果シテ十ノ級ト區別シテハ名称上何トナク生徒ノ厭倦ヲ來タスノ憂／ヘ之レ無キトモ申シ難ク且前期後期ノ名称ハ本縣ニテハ始メテ／ノ更ニテ耳新ラシキコトナレトモ他縣ニテハ従前ヨリ往々此ノノ名称ヲ用ヒ居レリ之レ改稱ノ主旨ナリ／十七番（芳野）曰 但止ムヲ得ザル更故アリテ一日ノ修業五時ノ間ニ滿タサルトキハ随ヒテ学期ヲ延フヘシアルハ飯ニ例セハ我カノ鳳珠兩郡ノ実況ハ到底四時間

ヨリ行レサル者ト見認ルトキハ／六ヶ月ノ予定ヲ八ヶ月トカニ予定シ置クノ都合カ／番外(上村)答曰 然リ生徒ノ進歩ニ應シ予定スル可／四十七番(室田)曰 止ムヲ得ザルトハ一ニ名ノ生徒ガ病氣等支故ニヨリ全ク授業シ能ハサル者モ尚ホ之レニ当ルカ／番外(上村)答曰 一ニ名ノ生徒ニ拘ルニ非ズ全体ニ就テノ支ナリ／十八番(山下)曰 毎期六ヶ月ノ修業ト定ルト雖トモ生徒ノ進捗ニ／應シ之ヲ伸縮スルハ教員ノ意ニ任スヘシトハ譬ヘハ二級生ノ十名アリ内三名ハ学業優等者進歩／

p 34

セントキハ何時ニ／テモ学期ヲ縮メ該三名ニ限り試験ヲ行フモ差支ヘサルカ

番外(上村)答曰 生徒ノ優劣ハ稟性ノ鈍鋭ニテモ差／違アル訳ナレハ敢テ一概ニ学期ニ拘泥スルハ／好マシカラズ故ニ優等生臨時ノ試験ヲ行フハ固ヨリ可ナリ然レトモ本日ハ三人来月ハ五人又翌月ハ二人杯ト云フ様／ニ相成テハ却テ不都合ヲ生ス／ベシ故ニ此所ハ一席ノ生徒惣体ニ対シテ同一ヲ欲スル精神ノナリ／四十六番

(開)曰 容儀ハ女子ニ限り授ルノ精神ハ如何ナル御趣旨／カ承リタシ／番外(上村)答曰 容儀ハ形容ヲ付スルヲ主旨ノトス固リ礼節ヲ授ルトハ大ニ其目的ヲ異ニスルナリ故ニ女子ノノ容姿ヲシテ●●タラ於ムルハ大ニ可ナリ男子ヲソテ之レヲ擬セシムルハ／不可ナリト思フ之レ女子ニ限り授ルトスルノ精神ナリ／四十一番(大島)曰 男児ハ本人ノ望ミ云々トアリ若シ望ミ人ナキ時ハ農／工商ノ科ハ設ケザルモ可ナルカ／番外(上村)答曰 農工商ノ内一科ハ必ず授ケザルヲ得ザルモノノナリ果シテ一科モ望マザルモノアラハ其人コリ必ス高等ヘ／入ルベキノ人ナラン／十四番(奥高)曰 一組中甲ハ農乙ハ商丙ハ工ト皆々望ミヲ異ニセ／シトキハ如何ニ教授スベキヤ／番外(上村)答曰 農工商ノ三科ヲ各自ノ望ニ應シテ授ルハ教／則上ニ固リ望マシキ支／ナリ然レトモ市街村落ノ區別ニテ大率ネ農商／

p 35

事業ノ分別モアレハ／土情ニヨリ農トカ工トカ定ルトハ博ク土情ニモ本人ニモ／係ハル意ナリ／四十八番(永井)曰 一般人民ハ先ツ理ニ於テ農工商ノ一科ハ必ス望ムベシ／ト雖トモ僧医ノ子弟ハ如何シテ宜シキヤ／番外(上村)答曰 僧医ノ業ヲ継カントスルニハ彊分ノ学識ヲ要スルハ勿論ナリ依テ夫レラハ高等ヘ入ラシメテ可ナリ／三十二番(茶谷)曰 本員ノ疑フ所ハ四十八番會員ノ問答ニテ略／ボ了セリ就テハ目下郡内ノ実況ニテハ早く退学ヲ欲スルノ／念慮ヨリ或ハ僧医トナルヲ口実トシテ退学ヲ出願スルモノノ／百三哉モ計ラレス然ル時ハ如何スベキヤ／番外(上村)答曰 僧タリ医タルヲ欲スルニハ彊分ノ学力ヲ要スルノニ付キ是非高等ヘ入ルベキ旨ヲ説諭シテ然ルベシ／三十二番(茶谷)曰 説諭服スルトキハ敢テ憂ル足ラサレトモ原ト／ヨリ之レヲ口実トスル程ノ者ハ必ス教員ノ説諭ハ無効ト信／セリ故ニ其際ノ知恵ヲ豫メ番外ヨリ借用シタシ／番外(上村)答曰 三十二番ノ質問ハ教則編成ノ説明者カ答弁ノシ能フル限リニ非ズ左様ノ所ハ別途ニ規則等モアラシカ／四十七番(室田)曰 口授ニ係ル教科ハ教員ニ於テ題目ト主旨トヲ記録シ／置キ云々トアレトモ口授ニ係ルモノハ必ス題目ト主旨トヲ併有スル／モノト一概ニ云ヒ難シ例セハ父兄ノ姓名等ヲ口授スルカ如キハ題目アリテ／主旨ノ無キモノナリ是レラハ如何スルノ御見込ナルカ／番外(上村)答曰 御尤ノ御尋ネ成ル程父兄ノ姓名等ノ如キハ題目アリテ主／旨ノ無キ様ナレトモ原案ノ主トシテ掲ケ置クベキコトハ空氣ノ腐敗空氣ノ／成立空氣ノ功用等ヲ口授シ置キ后日空氣ノ性質ト題目ヲ与ヘ／タルトキ其性質ヲ説クニ当リ以上ノ三行ヲ／

p 36

参考ニ供セシメン為メノ手續ナレハ右様ノ節ハ教員ニ於テ／簡短ニ該題目該主旨ヲ手扣ニ記●シ置カシムルノ意ナリ／四番(石川)曰 高等小学ハ筆算ヲ授クル処ナルニ之レカ必用タル算用数字ヲ／教ユルノ明文ナキハ如何／番外(上村)答曰 筆算ヲ用ルニハ先ツ数字ヲ知ラサ／

レハ到底能シ得サルハ諸君ノ明知スル所ノ故ニ
 筆算ヲ用ル処ニテハ是非数字ノヲ授ケサル可ラ
 ス之レ教則上特ニ明記ノセサル所以ナリノ二十
 一番（大津）曰 四番會員ノ質問ハ甚ク順序ヲ
 誤リシニ非ズヤノ乞フ會長ニ於テ差止メラレン
 コトヲノ會長（瀬川）曰 會長ニ於テ少ク見込
 アリ故ニ特許セシナリ依テ献議ハノ採用セズノ
 三十二番（茶谷）曰 数字トアル中ニハ亜拉比
 亜数字ハ含入セザルヤノ番外（上村）答曰 尋
 常科ハ類算ニ止ルヲ以テ無論数字トアル中ニハ
 ノ亜拉比亜数字ハ含入セズ然シ實際ハト云ハバ
 必ス高等ニ至ル迄ノニハ亜拉比亜数字位ハ自ラ
 記得スルナラン又教師ヨリ必用ト認ルノニ於テ
 ハ之ヲ教ルモ妨ケナシト信ズノ十八番（山下）
 曰 尋常小学ニ止ルモノハ必ス尙級ヘ入レシム
 ルノ精神ノトアリ然スレハ一級ナルモノハ高等
 ヲ縮束シテ其要ヲノミ摘ミシノカ如キ性質ノ者
 カ將タ温習ノ為メナルカノ番外（上村）答曰 尙
 級ハ二級迄ノ塗上ケナレハ高等ニハ拘ラズノ又
 温習ノ為メノミニモ非ザルナリノ十四番（奥高）
 曰 七週間以上ノ温習云々トハ七週間ヲ十二ヶ
 月ニ配当シテノ温習セシムルノ意カ將タ都合ニ
 依リ七週間連続セシムルノ意カノ番外（上村）
 答曰 七週間ヲ十二ヶ月ニ配当スルノ連続セシ
 ムルノト云ノ

p 37

フコトハ原案ノ主旨ニ非ズ畢竟其暇々ニナサシ
 ムルモノナノレハ例セハ農ナラハ雪中商工ナラ
 ハ營業ノ餘暇ヲ指スノ精ノ神ナリノ十三番（橋
 本）曰 温習ハ老人ノ為ニモ一科ヲ設クベキモ
 ノカノ番外（上村）答曰 老人而已ニテモ拾人
 ニテモ便宜時節ヲ計リテ復ノ習セシムルナリ時
 節トハ全弁明ノ通り農ナレハ冬ナドヲ指スノ
 意ナリノ四十八番（永井）曰 實際ヲ申サバ村
 落杯ハ学齡外ノ者ハ温ノ習ニ出ルモノ稀ナリ之
 レラハ如何シテ可ナルヤノ番外（上村）答曰 温
 習セシムル項学齡外ニナリシモノト雖トモ尋ノ
 常科ノミニテ卒リシモノハ温習サセタシ然レト
 モ学齡ノ同様ニハ責ル能ハサルベシ齡外ト齡内
 トノ扱ヒ方ハ無論差違ノアル叟ト存ズノ四十四

番（平田）曰 温習七週間以上ニ定メラレタル
 ハ必ズヤ讀書ハノ何時習字ハ幾時ト見込アリテ
 ヨリ出シコトカノ番外（上村）答曰 然ラズ右
 様綿密ノ計算上ヨリ割出セシモノノニ非ズ温習
 ヲ設ケ置ケバ家居平常ト雖トモ幾分カ感覺スル
 ノ所アリテ復習スルアルベシト思ハル併シ少ク
 モ七週間以上ノ温習ノヲナサシメズンハ到底其
 甲斐ナシ之レ立案ノ主旨ナリノ八番（宮野）曰
 第五級假名綴リトハ前期鍋トカ釜トカ云フ名
 詞タケヲ指ス坎又ハ筆ノハ物ヲ書ク具ナリトカ
 云フ様ナ簡短ノ章句モ書綴ラシムルノ意モ込
 アルカノ番外（上村）答曰 最初ハ鍋 釜 茶
 碗等ノ名詞ヲ授ケ逐次ノ生徒ノ進歩ニ応シテ短
 簡ノ句章ヲ書綴ラシムルノ意ナリ只注意ヲ要
 シタノキハ「チャワン」ヲ「チ」「ヤ」「ワ」「ン」
 ト讀ス様致シタシノ

p 38

十番（荒井）曰 假名綴ニ平假名ヲ用ヒテ片假
 名ヲ用ヒサル精神ヲ承リタシノ番外（上村）
 答曰 平假名ニテ十分ニ綴リ得ラルレバ自ラ片
 假ノ名ニモ綴リ得ラルルモノナリ尤平假名ノ本
 ナノ事ハ説明書ニモアル通りナリノ十八番
 （山下）曰 平假名ノ本タルトハ授ケ方ノ順序
 ヲ云フノカノ番外（上村）答曰 平假名ヲ以テ
 字ヲ教ヘ五十音ヲ以テ音調ヲノ正スハ大ニ順序
 ノ宜キヲ得ルナリ因テ平假名ヲ先ニスノ四十一
 番（大島）曰 変体假名ハ授ルノ見込カノ番外
 （上村）答曰 固リ授ルノ都合ナリノ四十七番
 （室田）曰 日用什器製造品及ヒ云々トアリ然
 スレバ日用ノ什器ト製造品トノ區別ハ如何々得
 ベキヤノ番外（上村）答曰 成程御尤ノ御不審
 ニツキ原案ノ主旨ハ橋トカノ狙トカ火鉢トカノ
 手近キ道具ヲ日用什器ト云ヒ羅紗ハ毛ノヲ以テ
 作ルトカ靴ハ皮ヲ以テ製造スルトカノ類ヲ製ノ
 造品ト云フナリ故ニ製造品ト云ヘハ製造セシ物
 品ニ限ルト雖ノトモ日用什器ハ製造品タルト否
 トニ拘ラズ総テ手近キ道ノ具ヲ云フナリノ八番
 （宮野）曰 庶物指数ノ授ケ方ニ級別ナキノ精
 神ヲ承リタシノ番外（上村）答曰 級別セサル
 ハ授業上ノ便宜ヲ斟酌セシナリ要ノスルニ從來

單語図ヲ授シ如キ粗漏且究屈ニ涉ラズシノ生徒ノ能力ヲ発達セシムルヲ主眼トシテ授ケタシノ四十四番(平田)曰 動植礦物等ヲ教フトアルハ如何シテ授ルモノカノ愚考ニ拠レハ動物ハ馬植物ハ松トカト教ルハ容易ナレトモ礦物ニ至テハ漸ク六才位ノ生徒ニハ殆ト困難ナラズヤ敢テ立案ノ

p 39

御主意ヲ承リタシノ番外(上村)答曰 動物ハ馬植物ハ松トカ申シテ授ルナラハ礦物モ亦金トカ鉄トカト教テ可ナリ渾テ科目ノ難易ハ概ネ授ケ方説キ方ニ依ルモノト御了知相成タシノ十四番(奥高)曰 徳義行トアルハ徳行義行ト二ツノ主意カノ番外(上村)答曰 然リ即チ徳ノ義ノ行ヒト云フコトナリノ四十七番(室田)曰 礼儀トハ礼ト義カノ番外(上村)答曰 然ラズ一熟語ナリ義ハ儀ノ誤リノ二十二番(花岡)曰 飲食ニ関スルト特書アルハ児童ハ果実ヲ好ンテ食スルヨリ斯克特書セラレシモノカノ番外(上村)答曰 養生ニ種々アレトモ小児ハ兔角飲食ヲ貪ルノ性アリ故ニ飲食ヨリ先ニ詳論スルナリ嗜好ト否トニ関ラズノ其度ト毒トテ云ヒ聞カスナリノ四十七番(室田)曰 二三ノ飲食物相合シテ毒トナルコトアリ之レラノ旨ノモ授ルノ意カノ番外(上村)答曰 飲食ニ関スルトスレハ至テ廣シ故ニ往々ハ消食器ノ呼吸器等ニ及フコトモ間々之レ有ルベシ然シ当級ニハ左様ナル高尚ノノ支柄ハ授ケサルノ主意ナレハ四十七番ノ御質問ノノ如キモ生徒ノ腦力ニ應シテ授業相成然ルベシノ十三番(橋本)曰 生徒ノ住所父兄ノ姓名トハ生徒各自ニ付テノ支カノ教員各自受持生徒ニ付テノ支カノ番外(上村)答曰 生徒各自ノ住所生徒各自ノ父兄姓名ナリノ會長(瀨川)曰 最早定刻時限ニ付一先ツ休會午食スベシト各ノ員退場ス其時零時拾分ナリノ午后壹時三十分再開議ノ

p 40

欠席未着午前ノ如シノ午后壹時三十分擊柝ノ報道ニ依リ會長會員及番外上村十六等出仕ノ并ニ勝ノ山郡書記等各其席ニ着キ一同正ノ礼ス畢テ

會長ハ之レヨリ午前ノ續キ即チ質問會ニノ取掛ル旨ヲ演述スノ四十八番(永井)曰 算術科ニ於テ数目及ヒ命位トアルハ如何ノ支ナルヤノ番外(上村)答曰 算術科ニ於テ数目及ヒ命位トアルハ如何ノ支ナルヤノ番外(上村)答曰 別ニ珍ラシキ器具モナシ并シ独樂ノ如キハノ動モスレハ害ナキニモ非レバ成ルベク男児ナラハ打毬トカ女児ナラバノ羽子突等ノ無害物ヲ用ヒタシノ二十一番(大津)曰 習字科中ニ数字ノ類トアリ此「類」トハ如何ナルノモノヲ暗ニ指稱スルノ意カノ番外(上村)答曰 支干若クハ東西南北ノ文字杯ヲ指スナリノ

○第五級後期

四十八番(永井)曰 文学科中ニ又短簡ノ句ヲ作ラシメ間々コレニ眞ノ字ヲ加フトハ如何ノ番外(上村)答曰 例ヘハ最初ハ「いぬがはしる」ト云フ事ヲ綴ラシメ稍之レニ熟スレハ「犬がはしる」又「犬が奔る」等ノ如ク間々之レニ眞字ヲ加ヘ授ケ専ラ活用セシムルヲ主トスナリ通例ノ書取又ノハ填字ト決シテ混視スルナカラコトヲ望ムノ

p 41

番外(上村)答曰 否ラス従前ノ縣図ハ洋算ノ為メニ用ルモノノナレハ算術ノ授業ニハ適セズ故ニ小学指教図ヲ用ル積リ減乗ノ除ノ呼声モ亦然リノ

○第四級前期

十四番(奥高)曰 書中ノ語ヲ變化スルトハ如何ノ番外(上村)答曰 例セバ「菊ハ秋ニ至テ咲ク」トノアルヲ「菊ノ花ハ秋ニ至ラサレハ開カズ」ト云フ様ニ語句ヲ變化スルコトノヲナリ尤菊ヲ梅トシ植物ヲ動物ニ變化スル等ハ固リ好マシキ支ノニテ成ルダケ博ク變化セシムルヲ良シトス是レ活用力ヲ附与ノスル為メナレバナリノ此時加藤郡長等臨會一同敬礼スノ八番(宮野)曰 口授科中衣服住居ニ関スル支等ヲ論ストアルノハ区域甚タ漠トシテ其程度ヲ弁知シノ難キ

乞フ一例ヲ承リタシノ番外（上村）答曰 衣服ノ汚レタルハ養生ニ悪シト説キ之レニ関ノスル養生ト成ルベキ更柄ヲ説キ論スナリ又住居ニ関スルトハ総ノテ家屋ハ屢障子窓等ヲ開キ空気ヲ流通セサレハ空気腐敗シ頗ル養生ニ害アリ尤寢室等ハ格別ニ注意スベシ杯ト説ノキ論ス類ナリ勿論住居トハ自宅ノミニ非ズノ十八番（山下）曰 皇家華士族平民ノ名義等ヲ知ラシムルトハ此級ノニテハ殆ト重カラズヤノ番外（上村）答曰 固り級ニ應シテ教授アルベキ管ナレハ敢テ難キノ更ニモ之レアルマジク尤皇家華士族ノ如キハ現ニ国内ニ區別ノアルモノナレハ少々其理由ヲ適度ニ授ケラルルモ可ナリ尚ホノ口授参考ノ書籍モ追テ刊行ニナルベキ管ナレハ旁六ヶ敷ノ更ト無之義ト存ズノ

p 42

四十七番（室田）曰 算術ノ應用トハ小遣帳ノ附方ノ及ヒ實際薪炭入払等ノ計算ヲモナサシムルノ意カノ番外（上村）答曰 成ル程四十七番ノ言ハルル処モ即チ應用ナレトモ此ノ級ニハ左様ニ高尚ナルモノヲ授ルノ主意ニ非ス是マテ通ノ常問題ト称ヘ来リシモノヲ應用ト称シテ授ルノ意ナリノ其授ケ方ハ塗板ニ書シテ行ハシムルトキモアラン時トシテハ口頭ニテ之ノヲ授ケ以テ行ハシムルトキモアラン之レラハ教授者ノ方寸ニアルノコトナリノ二十五番（生熊）曰 單ニ加法ト而已ニテハ餘リ漠タルモノナラズヤノ番外（上村）答曰 然リ併シ制限ハ設ケザルヲ可トス何トナレバノ物ニヨリ品ニヨリ桁位モ異ルモノナレバ之レニ制限ヲ設ルトキハ自ノラ活用ノ途ヲ窮屈ニスルノ恐レアレバナリ故ニ制限ヲ設ケズ級ノニ應シ脳力ニ應シ適當ト認ルモノヲ授ルヲ良シトス之レノ原案ニ制限ヲ設ケサル主眼ナリノ

○第四級後期

十番（荒井）曰 慶吊存問トハ如何ノ番外（上村）答曰 慶トハ養子ヲ賞ヒシナドノ祝儀ヲ賀スルノ更ナドヲ指シ吊トハ死去等ヲ吊フヲ云ヒ存問トハ普通ノ寒暑ノ見舞等ヲ指稱スルナリノ八番（宮野）曰 地理科中ニ住居スル地方トア

ルハ即チ居国ノ更ノト同様カ將タ別ニ含蓄スルノ意義アルカノ番外（上村）答曰 敢テ格別ノ差違ナシ併シ居国トスルトキハノ或ハ今濱高松ノノ如キ国境住居人モ居国ノミニ偏依スルノ憂モ無之トモノ保シ難シ故ニ住居スル地方トスレハ夫レラノ憂ナリ一層宜ヤト考フノ

p 43

十四番（奥高）曰 世界及ヒ日本国ノ大綱ヲ授クトアルハ世界ノ更ノヲ先ニ授ケ而シテ日本ニ及ブノ意カ將タ何レヨリ授ルモ妨ケナノキカノ番外（上村）答曰 先ツ世界ノ大ノ綱ヲ了知シ而シテ日本ニ及ブナリ之レ地理ノ順序即チ粗ノヨリ密ニ入ルノ主意ノ四十七番（室田）曰 日用文字ヲ書取ラシムルノ精神ハ如何ノ番外（上村）答曰 説明書ニモ有ル通り書ニ就ケハ讀得ルモノ更ヲ記スルニ當テハ業ニ已習ヒ得シ処ノ文字ト雖トモ望洋ノ軟ノヲナスアルノ弊實際往々ニ之レアリ故ニコノ弊ヲ除シカ為メニ書ノ取ニ日用文字ヲ加ヘシナリ又平素目ニ触ルル実物ニ就テモノ差支ナク書シ得ル様諸帳簿ノ表書ノ等モ自由ニ書シ得ル様ニシタキナリノ二十一番（大津）曰 慶吊存問ハ地方限リノ慣例アリテノ甲地方ニ無礼トスルモノヲ乙地方ノ礼式ニ用ルモノ甚タ甚タカラスノ今ヤ立案ノ御主意ハ慣例ニ準ルノカ將タ一定ノ正礼ニ準ノラシムルノカノ番外（上村）答曰 土風ニ反スルノ異例ヲ教ルハ好マシカラスノ併シ立案ノ趣意ハ左様ノ儀式ヲ授ルヲ主トセズ慶ハ祝ノセサル可ラサルモノ吊ハ悔ヤマサル可ラサルモノト云フ事ヲ授ルノ精神ナリノ十八番（山下）曰 文学科中作文ノ時間割ハ級ノ進ムニ随テ減ノ縮スルハ何等ノ理由ナルカノ番外（上村）答曰 別ニ理由ナシ級ノ進ムニ應シ多課ノニナルヨリ勢ヒ止ムヲ得ズ時間ヲ縮小スルナリ作文ニカラヲ入ノレサルニ非スノ

p 44

○第三級前期

八番（宮野）曰 口授科中心氣ニ関スル事トハ如何ノ番外（上村）答曰 心氣ハ即チ精神ナリ故ニ医師学士官吏ノ教員等ノ如キ精神ヲ役使シ

心気ヲ凝ラス業ヲナスモノノハ屢運動セサル可カラズ否ヲサレハ疲労ノ甚キヨリノ発病スル等ノ事アリ杯ト説キ聞ス之レナリノ八番(宮野)又曰 男女相應ノ字句トハ如何ノ番外(上村)答曰 本縣第一師範学校編輯書牘文例ノニ扱テ教授アレハ可ナラン相應トハ男児ナラハ恐惶謹言トカノ敬白トカト結尾スルヲ女子ナラハかしこトカト結ヒ男児ニノハ「一簡致呈上候」ト授ルヲ女子ニハ「一筆ぞ●●●」ト授ルノ類ヲ男女相應ノ字句ト云フナリ尤徳川時代ニ行レシノ如キ●儘レノ文体ニハ之レ無ナシノ三十二番(茶谷)曰 算算ノ乗法ニハ上カケ下カケ等ノ別アリノ之レハ何レヲ良シトスルヤ且ツ問フ練習部ニ行ルトノ乗ノ法ハ上ニカケ下ニカケカノ番外(上村)答曰 何レニテモ宜シ練習部ニ於テモ一定ノ則ナシノ十四番(奥高)曰 文学科中ニアル句章ノ拮構トハ如何ノ番外(上村)答曰 句章ノ拮構ヲ教ユトアレハ何トナク難サウノナレトモ左ニ非ス文ヲ作ルノ階梯ヲ開ク為メ且ツハ文体ニ注目ノセシメン為メナレバ唯此文ハ斯クノ如キ拮構ナルゾト云フノ大体ヲ教ルノ主旨ナリノ四十七番(室田)曰 并セテ簡短ノ文ヲ作ラシムトハ書牘文ノ簡短ナルノヲ作ラシムルノ意カノ番外(上村)答曰 然ラズ四級後期ニ作ラシメシモノト同ジクノ

p 45.

讀本ノ句章ニ摸擬シテ簡短ノ文ヲ作ラシムルナリ書牘ノ文ニハ非ズノ十五番(小竹)曰 地球上人類ノ蕃殖ノ及ヒ其開化沿革ノ概略ヲ授ルトハノ口授スルノ御主意カノ番外(上村)答曰 略史類ノ中ニハ東西洋共宇内ノ事ヲ抱括ノセシモノナシ故ニ当分種々ノ訳書ニ付口授ヲナスベシノ十四番(奥高)曰 簡短ノ文トハ紀事文ナリト四十七番へ稀答弁ニ

成リタレトモノ男女相應ノ字句ヲ書取ラシメ并セテ短簡ノ文ヲ作ラシムトアレハ本員ノ愚考ニテハ如何シテモ書牘文ヲシクノ思ハル依テ贅弁ヲ省ミストテ一應承リタシノ番外(上村)答曰 御尤御尋ネ文勢ヨリ見レハ成程書牘ノ文ヲシケレトモ爰ハ矢張前期ト同ク紀事文ナリ書牘

文ノハ次期ニテ簡短ノ書牘文ト明記シアリ尚ホ対照アリタシノ十番(荒井)曰 容儀科中ノ起居挙動トハ如何ノモノカ想ノフニ男子ノ体操ニ代ヘシモノニ非ルカノ番外(上村)答曰 起居挙動ハ即チ「タチ井フルマヒ」ト云ノフコトニテ足ノハコビ方又起チ居ハリ或ハ人ノ前ヲ過ルノニハケ様々ノ心得アリ杯ト授ルナリ体操トハ全ク性質ヲ異ニス併シ身体ニ関スルノ一点ハ同ジノ二十五番(生熊)曰 貨幣紙幣ノ更等ヲ知ラシムルトアルカ此ノ「事」ノ一字甚タ廣シ何様ノ事ヲ指サヤ承リタシノ番外(上村)答曰 此處小日用手近キモノ而已ヲ教ル積リノ

p 46

品位トカ何トカ名称ヲ特記スルトキハ勢ヒ煩雜困難ニ涉ラノサルヲ得ズ故ニ何トモ記載セズ單ニノ事ト致シ置クトキハ何ニテモ手近キ必用ノ更ノヲ授ルニ便宜ナルヲ慮レバナリノ二十五番(生熊)又曰 算術ニ乗法及其應用トアレトモ此應用ハ無論加減ノ應用モ授ル事ト信ズ果シテ然ルカノ番外(上村)答曰 此處ノ「其」ハ唯乘法ヲ指シタルモノナリ何ノトナレハ加減ノ應用ハ此級ニ於テハ復習ニ当レハナリ故ニ記載ノセズノ十八番(山下)曰 短簡ノ記事文ノミヲ作ラシメ何故ニ書牘文ノハ作ラシメサルカノ番外(上村)答曰 記事文ノ体ハ前期ニテ略ホ習熟ノセリ書牘文ハ然ラズ一重ノ●文ナレトモ●タ此本ノモノノヲ授ラナケレハ容易ニ能シ難シ依テ此級ニテハ精々書ノ牘ニ要スル日用文字ヲ主トシテ教ル積リ尚ホ説明書ヲ御覽アリタシノ十八番(山下)又曰 此級ノ書取及作文ノ科目ハ殆ト煩雜ニ涉リノ生徒ノ腦力ニ堪カタクヤノ恐レアリノ如何ノ番外(上村)答曰 左様ノ感覺モアレトモ彼我変易シテ之ノレヲ授ルハ却テ倦怠ヲ生セサルノ利益アリト番外ハ信ノ認セリノ二十一番(大津)獻議シテ曰 最早閉場ノ定刻ナレトモ番外モ非ノ常ノ御繁務ニテ片時モ早ク本場ヲ謝セラレタキ御都ノ

p 47

合ノ由ナレバ各員トモ非常ノ御勉強ヲ以テ今少シクノ開會シタシ依テハ暫時休憩ノヲ与ヘラレ

タシ／會長（瀨川）曰 二十一番ノ献議ヲ採用スルヲ可トスルモノ／ハ起立スベシ／十四番（奥高）三十二番（茶谷）四十七番（室田）四十八番（永井）ノ外惣起立／依テ會長ハ二十一番ノ献議ヲ採用スル旨ヲ演ベ畢テ休憩ノヲ命ス干時午后三時二十分各員退場ス／

午後三時五十分再開議ノ欠席未着午前ノ如シ／午後三時五十分分析鳴り會長會員併番外上村十六等出仕及ノ勝山郡書記等各其席ニ着ク●加藤郡長●●臨會各ノ員敬礼ス畢テ會長ハ前會ノ續キニ取掛ル旨ヲ演ベ且ツノ自分モ質問シタシトテ副會長ヲ呼テ其席ニ着カシメ起テノ三十一番ノ席ニ着クノ

○第三級 後期

八番（宮野）曰 通信ノ事等トハ如何ノ番外（上村）答曰 廣ク指シタルモノニテ彼ノ郵便規則ノ様ナノ六ヶ數コトヲ云フニ非ス其大体ヲ知ラシムルナリ其他ノ電信ナラハ其功用丈ケヲ知ラシムルナリ渾ノテ規則ニ係ル事ハ授ケサルノ主意ノ二十五番（生熊）曰 習字ノ時間割ヲ見ルニ男児ハ六時女子ハノ三時ナリ其理由ヲ承リタシノ番外（上村）答曰 女子ハ三時ニテ宜シト云フニハ非レトモ男女共ニノ

p 48

一日ノ修業ノ五時間ナレハ女子ニ裁縫ヲ加シ丈ハ勢ヒ各ノ科ノ中ヨリ減殺セサル可ラス之レ止ムヲ得サルニ出シナリノ十番（荒井）曰 受取證文ニハ抵当借用ノ証文等モ含蓄ノスル坎ノ番外（上村）答曰 抵当證文ナドハ規則ノアルモノナレバヶ様ノノ更ハ教ルニ及バズ尤受取證文ヲ自在ニ書キ得ルニ至ノレハ自然抵当証文ヲモ書キ得ルノ活力ヲ有ス故ニ別ニ規則アル抵当証文ノ如キヲ教授スルハ好マシカラズノ三十一番（瀨川）曰 地理ト云ヒ歴史ト云ヒ同ク之レ讀書ナリ然ルニノ文学ニ入ラサルハ如何ノ理由ゾノ番外（上村）答曰 文学科中ニアルモノハ句章ノ拈構等ノニ至ルマデ授ルモノニテ余程叮嚀反覆セサル可ラズ之レ別ノタザルヲ得サル所以ナリ故ニ地理歴史ノ書ハ文学ノ助けハノナスモノナレトモ意味ヲ解スルマテ●上リ句章ノ拈

構等小●ノタサルナリノ十八番（山下）曰 地理歴史ノ両科ハ意味ヲ解スル迄ニ止ルトノナラハ試験杯ノ節ハ主意サヘ誤ラズンハ少々讀方ヲ誤ノルモ差支ヘサルカノ番外（上村）答曰 否ラズ讀方ヲ誤リテ右ヲ「ヒダリ」と讀メハノ從テ意義モ相違スル道理ナリ尚ホ熟考ヲ乞フノ

○第二級 前期

八番（宮野）曰 講談法トハ談話ノシカタヲ授ルノカ文字ヨリモノ意義ヲ記憶セシメルノ手段カノ番外（上村）答曰 説明書ニモ記載ノ通り從來ノ講義トハノ異ニシテ一章或ハ一篇ノ全意ヲ會得シ且ツ自在ニ講談スルノ様ニシタキノ主意ナリ熟語ノ意義ヲ授ルハ固リナリノ十番（荒井）曰 單簡ナル曲直線ト云フハ如何ナル意ナルヤノ番外（上村）答曰 漢語ニハ單ハ「ヒトヘ」ノ事ナレトモ爰ニテハ左ノ

p 49

ニアラズ單簡ハ即チ「テガル」ト訳シテ可ナラン故ニ手輕キ線ノト云フ意ニシテ單ヘナル線ト云フ意味ニアラズノ十七番（芳野）曰 庶物指教ニ理化ノ一班ヲ授クトアリ此一班トハ何ノ程ヲ度トスルヤノ番外（上村）答曰 例ヘバ火ノ燃ルハノ斯ノ理由ナルゾト云フコトヲ説クナリ尚ノホ物理問答ト云フ書アリ之レラニヨリテ授ケラル々方宜シカノランノ四十七番（室田）曰

紀事文ハ單語ノ題ヲ与ヘ授ケシモノニ限ノルカ將タ其山ニ遊ブノ記トカ云フモノヲ作ラシムルモ可ナルカノ番外（上村）答曰 紀事文トハ廣キ指稱ニシテ農家稼ノ穡ノ類モアラン其山ニ遊ブノ紀事モアラン又人ノ更歴ヲノ手短ク作ラシムルモ可ナリ併シ余リ長々シキ立派ナモノヲ授ルハ好マシカラズノ要スルニ●●●●ナ●應セサル可ナリノ四十七番（室田）又曰 記事ト紀事トハ如何ナル差アルヤノ番外（上村）答曰

紀ノ字ハ多ク事柄ヲ書クニ用ヒ其山ノニ遊ブノ記ナドニハ紀ノ字ヲ多ク用井タリ其差別ハノ之レナキニ非レトモ亦山ニ遊ブニモ紀字ヲ書シ処モアレバー概ニノ斷言シガタシ故ニ爰ニテハ敢テ深意ナシ字義ニ泥マズノシテ可ノ二十一番（大津）曰 起チ廻リトハ如何ナル事ナルヤノ

講授ス／ルハ聴衆ヲ集メテ政談ヲ論議スルト大ニ性質ヲ異ニス尚ホ集／會條例ト云フ文字ヲ詭味アラハ蓋シ思ヒ半バニ過キザラン／十八番（山下）曰 国政談ノ授ケ方ハ大略ニ止ルカ細密ニ授ルカ／番外（上村）答曰 大抵適度ヲ見計ヒテ授ル可ナリ細密ニ過レバ／専門科ノ如キ姿トナリ疎略ニ過レバ実用ヲナサズ依テ一級ハ／尋常科ノ上塗ナレバ普通知ラザルヲ得ザルモノヲ簡約ニ説／キ聞カスノ精神ナリ乞フ實際教授ノ節々深く用意アラ／ンコトヲ／十七番（芳野）曰 政府ノ組立トハ如何／

p 53

番外（上村）答曰 国アレハ政府ナカル可ラサル大体ノ道理／ヨリ布テ中央政府ハ一官九省ニ／院等ヲ以テ組織シ地方政府ハ庶務学務等ノ各課ヲ以テ組立ア／リト云フ事等ノ普通知ラサル可ラサルノ要領ヲ教授スルナリ／十四番（奥高）

曰 人民ニ義務ノミヲ授ケテ権理ヲ授ケザルハ如何ノ／目的カ／番外（上村）答曰 爰ハ主トシテ国政ノ目的ヲ以テ目ヲ掲ケタリ／故ニ権理目ヲ明示／セス然レトモ義務ト云フコトヲ授ルニ当リ権理ノコトニ布／及スルハ固リ妨ケナシ決シテ権理ヲ知ラシメザルノ／主意ニアラズ／三十番（徳木）曰 算術科ニ開平方ノミヲ授ケテ開立方ニ及バザ／ルハ如何／番外（上村）答曰 顕算ノ開立方ハ余程困難ナリ之レ開立方授／ケサルノ主意／十四番（奥高）献議シテ曰 本日ハ余程時刻モ移リタレハ之レニ／テ閉場ヲ命セラレタシ／爰ニ於テ満場騒然トシテ十四番ノ献議ヲ採用アランコトヲ要ム依／テ副會長ハ多数ノ望ニ應シ之レニテ閉會ノ旨ヲ演ベ各員／退場ス干時午後六時二十分／本日傍聴人午前午後共七十名／

（続）